

物の中で、最も私たちの心が敏感に映し出されるのが金銭です。金銭は大切に扱い、世の中をより良くするために使用されるのであれば、自然に集まってくるべきです。しかし、欲心が頭をもたげ、自分さえ、我が社さえ儲ければ良いという心が出てくると、あつという間に離れていくのも金銭なのです。測量会社を経営するT社長は、測量機器の展示会で、レーザードローンという商品に惚れ込みました。業者の説明によると、このドローンは東京ドーム一つ分の大きさをわずか数分で測量できるというのです。しかし、販売価格を聞いてT社長は躊躇しました。一機一千万円、諸経費を含めると一千五百万円もするのです。それでもT社長は「作業の効率化が図れ、必ず利益につながる」と確信し、何とか資金を調達して購入に至りました。

T社長の思惑通り、レーザードローンはその力を遺憾なく発揮しました。これまでかかってきた測量時間が驚くほど短縮され、労力を要した崖や斜面の測量も難なくこなしてくれました。

当時、レーザードローンを所有している測量会社は全国に数社しかなく、噂は瞬く間に広がりました。T社長の会社にも測量依頼が殺到し、少々オーバーワークかとも思われましたが、利益を生み出すレーザードローンを酷使してしまいました。その結果、ドローンは故障してしまつたのです。数カ月先まで測量依頼があり、T社長はドローンを購入した本社にお願いして、代替



困難を乗り越えた T社長の挑戦と心の成長

機を借りることで難局を切り抜けました。ところが、その後、ある山を測量する際、山の先端にある小高い山を入力し忘れてしまいました。結果、代替機は小高い山に衝突し、粉々に砕け散ってしまったのです。

T社長は崖をよじ登り、衝突した箇所に向かいました。そこには見るも無残なレーザードローンがありました。T社長は分かる範囲で部品を回収し、すぐにメーカー本社に連絡しました。

すると本社の担当者から「T社長、あなたが使用していたのは代替機なんです。すべての部品が回収できていないようでしたら、保険は利きませんよ」と叱責を受けてしまいました。

悔しさと申し訳ない気持ちの中で、T社長は泥のついた粉々のレーザードローンを丁寧に磨き上げました。「この機体を作成するのにどれだけ多くの方々が携わってきたのか」と思うと、涙が溢れました。

利益に目がくらんで酷使してしまったことを猛省したT社長は、謝罪文と共に、綺麗に磨き上げた壊れた部品一つひとつを本社に送りました。

数日後、メーカー本社から連絡があり、低額の修理費で修理してもらえることが判明したのです。

私たちの心が見事に反映される金銭。その法則が分かれば、どのような心持ちで金銭に触れるのが正しいかは自ずと見えてくるはず。世の中を良くするための事業と心得て、金銭を扱いたいものです。